

質問

# 竹パウダー生産の事業化検討を

町長

取り組みとして研究してみたい



石原 武志 議員

**質問** 優秀な成績で全共を終え、5年後に向け課題の分析と次代の育成が必要。若者がヤル気を起こすプラスワンの施策、賞金や助成額を増す施策は。

**町長** 各種支援策や経費負担軽減は和牛改良組合と協調し行っている。「やる気を起こす」施策は関係

者の意見を聞きながら対応を検討したい。

**質問** 粗飼料高騰に對する施策・供給体制は。

**町長** 農業公社が開発地の保全管理の環境で栽培・販売している。県やJAとともにさらに検討したい。



竹粉碎作業の様子

**質問** 竹の粉末を飼料化し、成功している例がある。整腸作用や肉質の向上にも効果があるとのことだが導入はどうか。

**町長** 畜産飼料として利用されている実情は承知している。品質管理や労働力、機械導入費用等の諸問題を含んでいる。有効性の調査や先進事例に学ぶなど牧草栽培と併せ検討が必要と考える。

**質問** 伐採・搬出から製品化までトータルで事業化することが重要、是非計画導入を。

**町長** 採算性を前提にすれば難しい。環境的な面、山の管理等総合的に考えるとという視点で研究したい。

## 「関係人口」について

**質問** 多根自然博物館が開業35周年を迎えた。新たに町全体を博物館のように、「暮らせる博物館」としての構想を展開。多様な生活環境を求める関係人口の広がりをもつ捉える。

**町長** 長者の湯とも連携し限られたエリア内で凝縮され有機的に活用され、他にない魅力がある、更に連携を深めたい。

**質問** 2拠点住居が増えつつあるが受入れや住民の理解は得られているか。

**町長** 関係人口の考え方は、まだつかみきれないが確認する。

**提案** すでに輪が広がりがつつある。町民の理解や繋がりの関係構築を。



35周年を迎える多根自然博物館